

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

## ＜中道北小の概要＞

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に4月12日（水）オンラインで「質問紙調査」、同18日（火）全国学力調査が実施され、本校でも6年生22人が参加しました。この調査は、本校児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく教科に関する問題（国語・算数）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する問題は、知識・技能的な内容と知識・技能を活用する力（思考力・判断力・表現力）、課題解決のための実践力、評価・改善する力を一体的に問っています。

7月下旬に文部科学省から結果が送られ、調査結果の分析を行ってきました。この度、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。さらに、6年生には個別懇談等を通じてそれぞれの具体的な課題について説明をすることとしています。

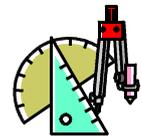
今後学校では、「各教科における改善点」をもとに全学年で取組を進めてまいります。また、各ご家庭でも後述の「今後に向けて」をお読みいただき、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

さらに、次のように本校の調査結果の概要をまとめましたので、保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。なお、全国学力・学習状況調査の結果につきましては、全国平均正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

〔参考〕教科別平均正答率（全国・山梨）（％）



	国語	算数
全国平均	67.2	62.5
県平均	66	61



## 調査結果の概要

◇本校の教科に関する平均正答率は、全国平均とほぼ同等でした。詳細については、「国語」「算数」とともに、若干ですが全国平均を上回りました。しかし、全国と同様に、「選択式の問題よりも記述式の問題の方が正答率が低い」という傾向があります。

質問紙調査については、自己肯定感が高く、「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」と思っていることが分かりました。

「国語の勉強が好き」と答える児童の割合が高いことが、国語の正答率のよさにつながってきていることが伺えます。

その反面、「規則正しい生活(就寝起床時刻)」「家庭学習への取組(学習時間)」などの生活習慣・学習習慣については課題があります。

## 教科ごとの状況と課題

## 国語

## 領域別

- 「情報の扱い方に関する事項」が全国及び県より高い。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てに渡って全国及び県より高い値である。

－（この項目は常体表現で記述）－

△記述式の問題に、課題が見られる。全国・県より10%ほど低い値である。

## 問題別

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことが県・全国よりも高く、数値

的にも高い値である。

- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」目的に応じて、文章と図表などを結びつけることが県・全国よりも高く、数値的にも高い値である。
- △「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」は記述式であることもあり、県・全国平均よりも低く、無回答率も高い。
- △「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」は県・全国平均よりも30%以上低く数値的にも最も低い値である。

### 算数

#### 領域別

- 「数と計算」「変化と関係」「データの活用」においては県・全国より高い値である。
- △「図形」において県・全国より低い値である。

#### 問題別

##### [数と計算]

- 「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、

分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる」「『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる」で正答率が県・全国より高い値である。

- △「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる」が、県・全国より10%以上低い値である。

##### [図形]

- 「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」の正答率は、県・全国より高い値であったが、正答率は低かった。

##### [変化と関係]

- 「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」で正答率が県・全国より高い値である。

##### [データの活用]

- 「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」正答率が県・全国より高い値である。

## 教科ごとの主な改善点

### 国語

- \*情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりにできることを実感できるように指導する。
- \*立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させる。
- \*与えられた文章の中から課題を解決するために必要な情報を選択し、本の題名や種類に着目し、目次や索引などを効果的に利用することができるように指導する。
- \*書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動を充実させる。
- \*自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- \*〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導する。

ー（この項目は常体表現で記述）ー

### 算数

- \*日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導する。
- \*具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。
- \*伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導する。
- \*複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導する。



## 質問紙調査の主な特徴

### 家での生活について

△「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに否定的な回答の割合が県・全国より高い。

### 自分や友だち、学級について

- 「自分には良いところがあると思うか」の問いの肯定的な回答の割合が高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」と思っている児童の割合が高い。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童の割合が高い。
- 「学校に行くのは楽しい」と思っている児童の割合が高い。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」は「よくある」「時々ある」と肯定回答で10割であった。
- △「友だち関係に満足していますか」については「当てはまらない・どちらかと言えば当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国及び県より多い。

### 学習について

- 「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次時の学習につなげることができていますか」「授業で学

んだことを、他の学習で生かしていますか」の回答は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が9割を超えている。

- 「国語・英語の学習の大切さ」を認識している児童の割合が高い。
- 「算数の授業での学習が将来社会の役に立つ」と考えている児童の割合が、全国及び県より高い。
- △「学校の授業以外の普段の勉強時間」「土日の勉強時間」の回答で全くしないの回答の割合が児童の割合が全国及び県より高い。
- △「一日あたりの読書時間」も「10分より少ない・全くしない」が4割ほどで、全国・県より短い傾向にある。
- △新聞を読んでいない児童の割合が多く、これは全国・県も同傾向である。

### 地域や社会への関心について

- 「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の回答の割合が、県及び全国よりも高い。
- 「外国の人と友だちになったり、外国のことを知りたい」「日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」の肯定的な回答率が県及び全国よりも高い。

## 今後に向けて

☆本校のほとんどの児童は、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。全国学力・学習状況調査の結果からも、子供たちのがんばりがわかります。

学校では、教職員一丸となって子供たちの学力向上に向けて、これまで以上にわかる楽しい学習に努めて参ります。

子どもたちにも自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきたいと思えます。各家庭におきましても、今後とも、子供たちへの声かけや、家庭での学習習慣を定着していくために学習環境を整えるなど、「家庭学習の手引き」等を活用し、自主学習への取組にご協力をお願いいたします。

本校児童の課題となる文章を読み取る力、表現する力は、すべての教科において欠かすことのできない力です。笛南中学校区3校の取組で中学校のテスト期間に合わせて、ノーメディアデーを設けています。テレビやPCの電源を落とし家族全員で読書や新聞を読む取組をしたり、興味がもてるような記事を元に話をする機会をつくったりし、活字に触れる機会を増やしていただければと思います。

本調査では明らかにはなっていませんが、子どもたちの会話から、ゲームをする時間が長いこと、ソーシャルメディアの活用時間の長さ等が、子どもたちの生活習慣に影を落としてきていると感じられます。そこで、ゲーム機やPC、スマホ、タブレット等の使い方について、もう一度家族で話し合ってください。使用時間などのルールを決めたり、作ったルールを見直したり守らせたりする取組を、根気強く進めていただけたらありがたいです。

家庭と地域と学校三位一体となって子どもたちの健やかな育成のため力を合わせていきたいと考えています。ぜひ、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。